



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 9 (令和4年7月)
発行:伊丹市立幼児教育センター
住所:伊丹市千僧1-1
電話:072-780-2488
アドレス:★新しくなりました★
youkyosenta@city.itami.lg.jp

★「保育環境」を考える～第2回 幼児教育研修会より～

幼児期における教育は、日々、保育者が意図して構成する「環境」を通して行われるものです。これは幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に明記されていることです。その「環境」とは、ただ単に子どもを取り巻くものではなく、日々、保育者が、子どもの発達や興味関心を踏まえて、意図して構成したものです。その「保育環境」を具体的に考える手がかりとなるよう、本センターにおいて作成中の、伊丹市幼児教育ビジョンの3つのキーワード、「愛情・自然・ことば」と、育てたいこども像である「夢中になって遊びよく考える子ども」に視点を置き、実際の保育環境写真をふんだんに掲載し年齢別にまとめた「伊丹市保育環境構成のてびき」は、初秋のころには皆様のもとへお届けできるよう、準備を進めているところです。

また、今年度の幼児教育研修会は、伊丹市教育委員、大阪総合保育大学教授 瀧川 光治 氏を講師にお迎えし、連続4回シリーズで「保育環境」についての研修を実施しております。

第1回は、今の子どもに必要な経験や遊びとは?～「トキメキ、ヒラメキ・イメージ、気づき・発見・できた!」が豊かに生まれる保育を目指して～、そして第2回は、心いっぱい、体いっぱい、遊び込むとは?～夢中・没頭して遊ぶ、どんどん好きになる～と題して、ご講話をいただきました。

第2回の内容を、簡単に紹介します。子どもをとりまく保育環境を振り返るきっかけになればと思います。

夢中・没頭に注目する 「遊びの夢中度」の側面から、子どもの遊びを見てみよう。例えば夢中度 1(低い)、2…5(高い)のように。夢中度が高いと、遊びの質が高いといえる。夢中度は、なぜそう判断したかが重要であり、保育者の遊びの質を読み取る『見る視点』を磨くことにつながる。また、読み取ったことを保護者に伝えていくことが大切である。(例 ごっこ遊びは、想像力や表現力、ことばの発達、人とのかかわり、規範意識などを育てる知的な遊びなのですよ、ということ、子どもの遊びの具体的な姿を伝えつつ、意味づけて伝える)

夢中度が上がるタイミング

☆新たな「ヒラメキ(試行錯誤・工夫)」やイメージがあるとき

☆目当てやゴールがあり、挑戦しているとき

☆持続・継続しているとき

そのタイミングの見極めには、細やかな「見守り」が必要。ただ「見る」のとは違う。

見守る＝子どもが何をやりたいのか、その心を読み取ること

遊びには山があり、ピークを超えると下降線をたどるが、「見守り」のもと、適切な環境構成や手立てをすることで、さらに次の山へと向かう＝夢中度があがる。

トキメキ(好奇心・探求心)を支えているもの

♡子ども自身が、めあてや思いをもち、試行錯誤することができる。知的な楽しさがある。

♡「自分にもできそう」というポジティブな自尊感情を大切に。

♡安心の場・雰囲気・居場所づくり

♡子どもの「思考を活性化」するものとの出会い←そのためには「教材研究・環境構成の工夫」が必要。

★第3回は7月28日実施、第4回は9月28日予定、今後ご案内いたします。多数のご参加お待ちしております。

★お知らせ①★ ・市内の新任、若手の先生たちのサポートと、つながりづくりの場、できます
・公立・私立、幼・保・こ 問わず、同じ立場の新任・若手の先生が学び、つながることができる場を、自主研として立ち上げ予定です。第一回目は、8/26(金)夜。(予定)詳しくは近日中にご案内いたします。

★お知らせ②★ 次回の幼児教育研修会は「幼少接続」がテーマです。

8/5(金) 15:15~16:45 リモート(Webex)にて

「乳幼児期の遊び・育ちを小学校での学び・育ちへつなぐ」

講師 福井市豊(みのり)小学校 教頭 青木 美恵 氏(前 福井県幼児教育支援センター長)

幼少接続の大切さはずっと以前から言われてきていたことですが、これまで、なかなか進んでこなかった実態がありました。しかし R3.7、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が中教審において設置され、今、全ての子供の学びや生活の質を確保・向上させていくために、今改めて幼児期の育ちと学びを、小学校以降へ滑らかにつなぐことの必要性が叫ばれています。

講師の青木先生は、昨年度まで福井県幼児教育支援センター長として、全国でも先駆的に幼少接続を推進されてこられました。また、この研修は、市内各小学校からも参加があります。幼小「交流」ではなく、保育と教育の内容が繋がっていくこと-めざす幼小「接続」のありかたを、就学前施設・小学校、両方の立場から共に学び合える貴重な機会です。多数のご参加、お待ちしております。

多数のご参加、お待ちしております。

★新刊のご案内

「わくわく せいかつ」上・下

啓林館

*伊丹市の小学校で使用されている「生活科」の教科書です。

小学校では、教科を通して子どもはどのようなことを学んでいるのでしょうか。それを知ることは、幼児期の育ちや学びを円滑に小学校での学びにつなぐためのヒントとなるでしょう。



「あそびが学びとなる 子供主体の保育実践 子どもと自然」学研

大豆生田 啓友 編・著

出原 大・小西 貴士 著

*今、なぜ、自然にかかわる遊びが重要なのか？

本書は、単なる自然遊びのノウハウ本ではありません。自然に親しむことの大切さや、自然を慈しむことから生まれる SDGs の視点について大豆生田先生の解説とともに、季節ごとにふれてみたい植物やあそびについて紹介しています。



☆ご紹介の専門書は幼児教育センターの貸本です。是非お越しいただき、ご覧ください。

★あながきコラム

先日、こども園を訪問した際、いろいろな気づきがありました。

・乳児クラス保育室に、一人ずつ、遊んでいる姿のポートレートが掲示してありました。その写真に添えて、その子が、今、何に興味をもって遊び、その中で何を学んでいるのかが一人ひとり、短いエピソードとともに記してありました。

・各クラスの様子をホームページにアップする際、その記事を書いた先生と園長先生とで、アップする写真から学びの読み取りをし、それを文章に記して発信することを心がけておられるそうです。

上記2点のような取り組みは、瀧川先生の講話にあるような、先生一人ひとりの『遊びの質を読み取る視点』を磨くことにつながります。また、そうして読み取った子どもの学びを、こまめに、わかりやすく保護者に発信されている取り組みに感動し、自分自身学ばないといけないなと思いました。

また、こんな姿もありました。

・年長児クラス。みんなでオリジナルの「しりとり歌」を作る活動の中で、子どもが思いついた言葉を、先生がタブレットで画像検索し、提示していました。語彙や言葉の理解に個人差がある中で、このような、ICT 機器の適切な活用により、子どもたちはより「わかった」感をもってしりとりを楽しんでいるな、と、手を挙げる子どもがどんどん増えていく姿から、感じ取ることができました。子どもが当たり前でタブレットを使って学ぶ時代。保育の場では子どもの意欲・関心・態度を育むツールとして、これからいろいろなアイデアや活用方法を皆で考えていけるとよいですね。

(幼児教育推進課 岡本)